

あなたは PECS についてお聞きになったことがあるでしょうが、  
本当の PECS をご存知ですか？

## 絵カード交換式コミュニケーション (PECS) をめぐる俗説と誤解

(<http://www.pecsaustralia.com/myths.htm>)

PECS オーストラリア ディレクター  
アマンダ・リード  
(2006/11/26 門 眞一郎 訳)  
(2007/04/22 最終修正)

この翻訳に関しては、オーストラリア・ピラミッド・エデュケイショナル・コンサルタント社のアマンダ・リード先生と日本ピラミッド・エデュケイショナル・コンサルタント社の服巻繁先生からホームページ掲載の許可をいただきました。

このおよそ 10 年間で、頭文字 PECS は、自閉症療育の分野ではよく知られるようになりました。多くの方が PECS について聞いたことがあるでしょうが、本当の絵カード交換式コミュニケーション・システム (PECS<sub>c</sub>) について多くの俗説や誤解もあります。以下に要約したのは、最もよく聞く俗説のいくつかです。

「何であれ絵カードさえ使えば、それは PECS だ。」

たしかに PECS では絵カードを使います。ただし PECS は、欲求や要求を伝え、周囲の世界についてコメントするために、絵カードを表出的に使うことを教える特別な手順<sup>プロトコル</sup>なのです。この手順には、6つの明確な指導フェイズだけでなく、言語に属性（例えば、色やサイズ）を導入する方法が入っています。これは、応用行動分析の分野からの知識と、言語病理の分野の知識とを組み合わせ、機能的コミュニケーションを教えるための効果的かつ効率的な方法になっています。指導手順は、現在アンディ・ボンディ博士とロリ・フロスト言語聴覚士 (SLP/CCC) が 1985 年に開発し、最新版のマニュアル『PECS トレーニング・マニュアル第 2 版 (Bondy & Frost, 2002; 門眞一郎監訳 (株)From A Village (フロム・ア・ヴィレッジ), 2006) で詳しく説明されています。このトレーニング・マニュアルは、利用可能な最も革新的なシステムの 1 つへの実践的なガイドとして、コミュニケーションと行動分析の専門家から認められています。

「視覚的スケジュールを使っていれば、それは PECS だ。」

PECS は、重度のコミュニケーション障害の人のための表出性コミュニケーション・システムです。視覚的スケジュールは、受容性〔理解〕コミュニケーションに関するものです。PECS はピラミッド教育法 (Pyramid Approach to Education) の一部なのですが、そのピラミッド教育法自体は、視覚的スケジュールも使います。視覚的スケジュールすなわち PECS なのではありません。

「PECS は、まったく話せない人だけのものである。」

PECS は、とても効果的な機能的コミュニケーション・システムを、音声言語がまったくない人に与えることができますが、言葉を話せる人にも重要なスキルを教えることができます。PECS の手順で力説されるのは、コミュニケーションというやりとりを他者に対して開始するやり方を教えるということです。言葉は話せるかもしれませんが、それが対人接近を必要とすることが分かっていない人がいます。すなわち、だれもない部屋や冷蔵庫に向かって話している人がいます。このような人たちは、PECS によって対人接近を習得することができるでしょう。言葉は話せるかもしれませんが、問われたり話さないと言われたりした場合にのみ、話す人もいます。このような人は、自発的、自己先導的なコミュニケーションを、PECS によって習得するでしょう。PECS は、話せない人には代替コミュニケーション・システムとなり、話せる人には拡大コミュニケーション・システムとなります。

「PECS は、年少児だけのものである。」

PECS は、世界中で、生後 14 か月から 85 歳までの人に使われてきました。年齢やコミュニケーション障害のタイプによって、習得プロセスは異なるでしょうが、PECS は年齢に関係なく、効果的で機能的なコミュニケーション・システムとなります。

「PECS は要求することを教えるだけだ。」

要求は PECS で最初に教えるスキルですが、手順の最後のフェイズでは、コメント(例：見える、聞こえる、臭うなど)を教えます。PECS は、要求や欲求をただ満足させるだけの人間にするのではなく、自分の周囲にいる他者とコミュニケーションをとる人間にするのです。

「PECS を使って何かを要求する場合、その要求をかなえなければならないとすると、子どもを《甘やかす》だけにならないか。」

PECS の手順では、フェイズ とフェイズ においては、要求はすべて受け入れます。このフェイズは、PECS を習得中の人々がコミュニケーション・システムを信頼するようになる時期だからです。もし、「だめ」と言うことを早く始めると、PECS を習得中の人々はコミュニケーションを取ろうとしなくなるかもしれません。なぜなら、PECS がいつもうまくいくとは限らないということ、習得中の人に体験させてしまうことになるからです。ひとたびフェイズ を習得した人は、コミュニケーターであり続けると確信できます。そうすれば、人はほしいものを要求することができますが、答えは時には「ダメ」ということもある、ということも教えてもよいということになります。

「もし PECS を使うと、その人は話すことをおぼえようとはしなくなる。」

他のどの代替コミュニケーション・システムでも言えることですが、PECS を使う人は、言葉による〔音声言語〕コミュニケーターになる可能性が高くなります。これまでの研究結果によると、PECS を使う人の中には言葉を話すようになる人がいますし、その言葉は PECS を使ったために出てきたと考えられています。しかし、私たちにも分かることは、たとえ PECS を使って言葉が出ない人でも、自分の周囲の世界で、多くの人とコミュニケーションをとるための効果的な方法を持っているということなのです。

「PECS は自閉症の人だけのためのものである。」

PECS は、米国のデラウェア自閉症プログラム（DAP）で開発されました。ですから、自閉症の療育の中から始まったわけです。しかし、PECS の始まり以来、20 年たって分かってきたことは、PECS は、コミュニケーション障害のある様々な人たちの有効なコミュニケーション・システムとなりうるということなのです。PECS の対象は、自閉症、ダウン症、猫鳴き症候群、アンジェルマン症候群、発達遅滞、言語障害、発達性運動性失語症、頭部外傷... リストはさらに続きます。

まとめると...

絵カード交換式コミュニケーション・システム（PECS<sub>Sc</sub>, Bondy & Frost, 2002）は、ユニークな拡大/代替コミュニケーション・トレーニング手順であり、コミュニケーションの自発という面に着目する点で世界中に広く認められています。PECS では、複雑な装置や、高価な教材を必要としません。PECS は、教師や居住施設のケア担当者、家族を念頭に置いて開発されました。ですから、いろいろな場面ですぐに使えます。様々なコミュニケーション障害、認知障害、身体障害の人に役立つコミュニケーション・システムです。

絵カード交換式コミュニケーション・システムについての研修は、ピラミッド教育コンサルタント社（Pyramid Educational Consultants）を通じて行なわれています。これは、アンディ・ボンディとロリ・フロストが率いる世界規模のグループ会社です。オーストラリアのピラミッド社のコンサルタントたちは、Dr.ボンディと Ms.フロストの専門知識や技術を維持し、修正が施される PECS 手順をすべて改訂するために、おふたりと緊密にチームを組んで活動しています。

ピラミッド教育コンサルタント社や PECS についてもっと詳しくお知りになりたい方は、[www.pecsaustralia.com](http://www.pecsaustralia.com) か TEL(08)8240 3811 へどうぞ。